

## 函館市中央図書館

住所:040-0001 函館市五稜郭町 26-1 開設年:1928年 設置母体:市町村区立  
 所蔵資料:蔵書 680,000 冊 職員総数:中央図書館(職員 13 人、嘱託 5 人、委託 48 人) 図書室(嘱託 15 人、4 人)  
 回答担当:奉仕・歴史係

目的 〔達成状況〕	①資料の保存・管理〔原本資料を出納することなく利用が可能となり、保存状況が改善できた〕 ②検索性の向上〔地図・絵葉書・写真・ポスター等の図像資料を中心に利用が増加した〕 ③二次利用・貸出〔出版・テレビ・商品パッケージなど多目的に利用され、件数も増加した〕
所蔵資料の 収録率	不明(整理作業を行いながらの作業のため全点数の把握は難しい)
運営予算	◆年間予算に占める割合:0.6% ◆外部委託費が占める割合:95% ◎課題・工夫点等:デジタルデータの作成は館内で作成不可能なもののみ業者委託で作成し、大部分の資料画像については職員が作成している。公開・効率的な撮影システムの構築は、地元大学へ研究委託することで経費と労力の節減を図っている。また、資料によっては整理補助ボランティアを育成し、費用負担の軽減を図っている。
人員	◆運営担当者:知識の多い職員 ◆職員のスキル等:前職として函館市史編さん室に勤務しており、歴史資料全般についてある程度の知識を有している。また前職在職中に職場内の HP 作成を担当し「函館市史」デジタル版等を制作、「函館市史」年表編発行過程でも年表データの入力をデータベース化するなど、独学で技術を学んできた ◆人材育成の取組:その他:システム開発委託先の大学と定期的に協議の場を設け、助言を得ている ◎課題・工夫点等:個人の知識・技術等に負うところも大きく、継続的事業展開には課題がある。そのため大学等の外部機関等専門機関との連携で図書館内に「専門家」を置かなくとも運営が可能な体制づくりを進める必要がある。
権利処理	◆処理方法:著作権フリー資料 ◆処理状況:— ◎課題・工夫点等:現在までのところ著作権・所有権等の問題のある資料はデジタル化していないが、調査等で外部の研究機関が来館する場合は意見交換等を行い情報の収集に努めている。
他機関との 連携	◆連携状況〔連携内容〕:連携している〔公開システムの構築および効率的な撮影方法等について大学と連携している〕 ◎課題・工夫点等: ・地域の共有財産である貴重な資料の保存・利用について、大学や博物館等と連携してそれぞれの特性を活かして協力する体制づくりも合わせて提案・実践している。 ・システムについては、公立はこだて未来大学と連携。 ・所蔵資料の内容調査については、北海道教育大学函館校と連携 など。なお、成果等について共同で更新可能な CMS 等も共同研究中(試験公開中)である。
その他 F.A.	資料番号を画像番号・フォルダ番号と同じにし、CSV で作成もしくは書き出した目録データと画像データが自動一致で更新できるように手間を省く設計にしている。市販データベースほど高度ではないが、複雑すぎてソフトに大きく依存するデータベースではなく、技術革新に応じて更新のしやすい、シンプルなデータベースとしている。以上のことで結果的に、なるべく簡易な運用ができるようにしている。

### 【函館市中央図書館・提供アーカイブ】

<b>■デジタル資料館</b> (1 件目/1 件中) 公開年:2008 年 URL: <a href="http://www.lib-hkd.jp/digital/index.html">http://www.lib-hkd.jp/digital/index.html</a> 更新頻度:年数回程度	
概要	古地図・古写真・絵葉書・ポスターの図像資料を中心としたデジタルアーカイブである。また文字資料については「函館市史デジタル版」「はこだて人物誌」を展開しており、文字資料と画像資料による両面からのデジタル化を図っている。 ◆コンテンツ総容量:1.5TB ◆コンテンツ総件数〔内訳〕:16,370 件〔写真 3,000 枚、絵葉書 10,000 枚、ポスター2,500 点、古文書・古地図 640 件、書籍等のテキスト化 230 冊(市史、人物伝)(以上、未公開画像・資料等の点数も含む)〕 ※写真・絵葉書は 1 枚を 1 件と数える ◆コンテンツ増加量:不明(年に数千点)
利用者	◆ウェブアクセス数:1,350 件(デジタル資料館のトップページのカウンタ数、年間 5,700 ユニークユーザー・20 万ページビュー(大学委託分のみ)) ◆館内等利用者数:不明 ◆利用条件:無料 ◎課題・工夫点等:高精細画像による拡大表示がスムーズにできるようなソフトを採用している。現在開発途上であり、今後とも利便性・他館システム等の状況を見ながら開発していく予定である。
構築	◆システム開発方法:その他:基本データベースは大学が開発、細部拡大などは市販ソフトを組み込んだ ◆構築予算:101~300 万円(コンテンツ作成委託料は含まず) ◆予算の出所:自前の予算 ◆予算獲得のきっかけ:図書館の移転改築時に課題となっていた資料保存と利活用を両立させるために、新館構想のなかで予算化された。 ◆構築業務の担い手〔委託内容〕:ほとんど外部委託〔コンテンツ作成以外の公開システム開発および試験運用〕 ◆コンテンツ作成費:201 万円以上
運営	◆年間運営予算:101~300 万円(コンテンツ作成料含む) ◆予算の出所:自前の予算 ◆運営業務の担い手〔委託内容〕:一部外部委託〔データを職員が作成、更新等の作業は大学〕

技術	<p>◆参考文献:— ◆メタデータ作成者:函館市中央図書館 ◆準拠フォーマット:なし ◆利用・提供用ファイル:JPEG, FLASH</p> <p>◆保存用ファイル:TIFF ◆記録媒体:HD, CD-ROM, DVD ◆長期保存のための取組:HD(ミラーリング構造)および CD・DVD による複数媒体による保存を実施している。また、デジタルデータの作成の際に地図については再度撮影し、データを再作成することは予算的に難しいため、貴重さに応じてポジフィルムでの撮影を実施している</p> <p>◎課題・工夫点等:大学等と定期的に意見交換のための協議の場を設け、複数の立場から課題の解決に取り組んでいる。</p>
システム間連携	◆外部インターフェイス:不明 ◆連携システム:連携していない

※平成 21 年度図書館及び図書館情報学に関する調査研究「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」(調査期間:平成 21 年 10 月及び 12 月)の回答内容を一部更新したもの(平成 22 年 11 月更新)。

## A. 基本情報

### A-1 自己紹介をお願いします。

函館市中央図書館で、歴史資料とその電子化を担当している奥野進です。平成 18 年度まで函館市史の編纂事業に携わってきましたが、事業終了に伴い図書館に異動してきました。市史編さん室勤務時から「函館市史デジタル版」や「はこだてポスターコレクション」というポスターデータベースに取り組んでいましたので、その延長線上で、地域歴史資料を基礎とした情報発信を行っています。図書館としての事業開始が平成 15 年度からですが、その 4 年後の平成 19 年度からデジタルアーカイブ事業を担当しています。

### A-2 貴館のデジタルアーカイブについて簡単にご紹介をお願いします。

函館市中央図書館は、古い資料が多く、北海道のなかでは資料をたくさん所蔵していることで有名な図書館です。これらの資料をインターネット上で公開する「デジタル資料館」(<http://www.lib-hkd.jp/digital/index.html>) というサイトを設置していますが、これまではテキストデータによる目録では理解しづらい地図やポスター、写真、絵葉書といった図像資料を中心に公開してきました。

## B. 構築時の状況について

### B-1 構築のきっかけは何ですか？また、それはいつ頃のことですか？

現在の中央図書館は、旧図書館が平成 17 年度に移転し、新たに現代的設備を有する図書館として開館しましたが、その建設構想のなかで、デジタルアーカイブ事業が計画され、実施されました。平成 15 年度に予算化され、現在に至っています。函館の図書館は「北方資料の宝庫」と称されるほど、多くの古い記録資料を所蔵していますが、マイクロフィルム等の二次資料の作成が遅れていましたので、資料保存の観点から推進されたものです。

### B-2 どういうデジタルアーカイブを作るか、提供するコンテンツの種類をどうするか等の方向性は、どのように決めましたか？

利用も多く劣化が進んでいた古地図（主に折り図）を対象としたのが最初のようにです。同じように資料保存のため、古文書も閲覧の多い資料から順次撮影作業を行っています。

写真・絵葉書については、地元の大学（公立はこだて未来大学）が研究対象として画像データの作成を支援してくれましたので、そのデータを利用して今の公開につなげています。書籍をサービスするのは図書館ですから蓄積がありますが、写真や絵葉

書は一枚一枚を管理するのは難しく、年代的にも古い資料が多いため、閲覧等には注意が必要な資料です。ポスターも大型で出し入れ自体が難しい資料ですので、それらの一般サービスが難しい資料を対象としています。

**B-3 作業プロセスの概略を教えてください。**

事業開始にあたって、初年度に A3 判のスキャナや一眼レフのデジタルカメラを購入し、同時に専門業者への委託事業で地図の撮影を始めました。デジタル資料館の公開をはじめたのは平成 20 年度ですが、それまではこの地図データと大学による写真・絵葉書データの作成が行われていました。

平成 19 年度に私が異動で来たときは、画像データは蓄積されているものの、閲覧や公開に結びついていなかったため、すぐに公開に向けての検討を行いました。業者委託でのデータベース構築も検討しましたが、支援してくれていた大学と連携したほうが、費用的にも、地域連携としても良かったので、大学と正式な研究開発委託契約を結び、公開用システムを構築してもらいました。

ファイル名や保存方式といった、データ管理上の問題をどうするのか、公開方式はどうするのかといった問題も、この時にある程度の方針を決めました。現在もより使いやすいシステムにするため、大学とは協議を続け、実際に改良を行っていく予定です。

**B-4 どのような体制で構築作業を行いましたか？例えば、特別にプロジェクトチームのようなものを立ち上げましたか？また、何人くらいの職員が担当しましたか？**

担当としては私 1 人ですし、他の業務もありますので兼任です。ただ、資料やデータベースの活用を図るうえでも、図書館だけで実施するには限界がありますので、大学等も含めた地域連携プロジェクトのようにできればと思い、現在のように大学と連携することにしました。

実際の作業は、地図データは業者委託で作成しますし、写真・絵葉書データは、大学で作成してくれましたので、表示用のテキストデータを作成し、公開システムの構築を大学に委託するだけで公開できました。目録の取り方や表示項目など内容の検討については大学と調整して決定しましたが、データベースの設置や開発自体は大学が主導する形です。

**B-5 構築にあたり、他館の事例を参考にしましたか？その場合、参考とした館を教えてください。**

デジタルアーカイブ推進協議会が出していた『デジタルアーカイブ白書』などのデジタルアーカイブに関する書籍やインターネット等で先進事例を見たりはしましたが、特にモデルとした館はありません。

**B-6 他<sup>1</sup>の組織や外部有識者、自治体内の他の部署等に相談に行ったりしましたか？また、参考になった資料等があれば教えてください。**

大学との委託契約については、産学連携がすすんでいる函館市の商工観光部門から参考書類等をいただき、参考にしました。

実際の公開方式の検討については、大学と調整をすすめるなかで、いろいろな相談も行い、地図の細部が拡大できる公開方式や使用ソフトウェアなどはむしろ大学から提案がありました。ですから一般的な委託業務だと、細やかな仕様書が必要で、そういった仕様書を作るのに知識と労力が求められますが、専門家に相談しながらの構築ができた点は大きいと思います。

**B-7 （委託の場合）職員と委託業者の作業をどのように切り分けしましたか？**

画像データの作成については、なるべく職員が行うようにしています。ですから画像データの作成で業者に委託するのは、古地図などの大型で自前の電子化が難しい資料のみです。ただし、効率よく撮影できるように公立はこだて未来大学の協力を受けて、古文書撮影やポスター撮影などのシステムを設置してもらっていますし、職員だけでは大変ですので、絵葉書資料については、図書館ボランティアの方々に作業をお願いしています。

書誌データは、主に職員が作成していますが、絵葉書については画像データ同様に書誌データも作成をお願いしていますし、掛け軸や卷子本などの特殊形態資料は、北海道教育大学函館校の先生に研究委託を行い、簡易画像の作成や書誌内容の調査も行っています。

公開に関しては完全に公立はこだて未来大学に委託していますので、図書館としては書誌データと画像データを作成し、大学に納めると、大学が処理を行うという具合です。

**B-8 構築に着手してから公開に至るまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか？**  
実質半年くらいです。

**B-9 構築に際し、もっとも大変だと思われたのはどのような点ですか？**

地方の公共図書館ですから、財源・人員も限られています。函館市だけがデジタルアーカイブ事業に多くの予算を割いてくれるわけではありませんし、人的配置も既存人員の範囲内での実施ですので、労力が少なくても継続的に運営できる体制づくりもしなければいけません。規模が大きくなっても手間がかからないようにするには、どうしたらいいかということを考えると、結構いろいろな知識が求められるし、あまり前例がないので難しいかも知れません。

**B-10 構築に際し、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められましたか？**

データベースについては、市販のリレーショナルデータベースを業務で使用していますし、Web に関しては自分でホームページを設置するくらいはできますが、特に専門的知識や資格は持っていません。ただ、既存のインターネット上で実現されていることを見ると、何がどの程度実現できるかは想像できますので、そのくらいの理解は必要かも知れません。

**B-11 システム関係以外に必要なとなった知識・技術はありましたか？**

どの資料を対象にするか、どのように見せるかも求められますので、資料の特性や利用のされ方、劣化、希少性などを判断する基準となる、歴史資料に関する基礎知識が求められます。案外重視されていないのかも知れませんが、資料の総合管理のためのデジタル化ですので、原資料の保存・利用のあり方に即したシステムにしないと、使い勝手の悪いシステムが出来てしまいます。

あとは著作権などの権利問題のことも押さえておかないといけません。

**B-12 必要となる知識・技術をどのように身につけましたか？受講した研修等があれば教えてください。**

書籍やインターネットで調べて、それを実際にやってみるということでしょうか。函館は歴史のまちという看板を掲げていますが、歴史情報については十分に発信できていないと感じていましたので、まずはインターネットで発信するためにホームページの作成から始めて、その後たくさんの情報を管理するためにデータベースを作成してみて、といった具合です。あわせて市職員を対象とした自主研修制度などを使用して、講師を招聘して小さな勉強会などを実施したりもしました。

**C. 稼働後の運営について**

**C-1 現在の担当者は何名ですか？（委託の場合、委託業者と職員に分けてお答えください。）**

1人です。そのほかに、絵葉書整理のための図書館ボランティアは、いつも8人くらいで作業を行っています。それに大学が加わるという形です。

**C-2 日々の作業としてどのようなことを行っていますか？**

他の業務も担当していますので、業務の合間を見て、古文書撮影機での古文書撮影、スキャナでの写真資料・小型地図資料等の画像データを作成しています。平均すると1日に2時間も割けていないと思います。

**C-3 運営に当たり、課題だと感じていること、負担となっていること等がありますか？**

図書館全体で考えると、窓口業務に比べ利用実態がわかりにくいということがありますので、館内の理解が得にくいということがあります。インターネットの閲覧実績等は莫大なアクセス数があってもなかなか評価されませんし、人員・予算等も追いつかず、業務分担等での位置づけも十分ではありません。

これまでは公開を第一に考えていましたので、最低限の情報で公開できる形ですすめてきたのですが、今後は他館との連携も考えてメタデータをもう少し工夫していかなければいけないと考えています。

図書館界自体が情報化のなかの過渡的な位置づけにあるからかも知れませんが、長いスパンで考える、例えば10年後を考えて事業を位置づけることができていくかは大きな問題です。業務の継続性を考えると当然、引継ぎを行うことが前提となりますのですが、デジタルアーカイブに必要な知識であるシステムに関する知識、資料に関する基礎知識のある職員を探すことは難しい状況ですので、この両面をカバーすることができる人材を育成することが最大の課題だと思います。

**C-4 デジタルアーカイブのコンテンツを他の用途に活用していますか？（学校や市民講座の教材として活用、紙焼きして展示会を開催等）**

使用したいという申請があればデータの配布を行っています。申請を見ますと、土産品パッケージや教科書、書籍掲載、テレビ放送、学校での学習利用など多目的に利用されています。自館にも展示ホールがありますので、データから印刷した資料を使って年に数回程度は資料紹介展示も行っています。

**C-5 日々の作業に当たり、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められていますか？**

構築はさまざまな知識を求められますが、更新やデータの作成といった日々の作業については、すでに決められたルールに従って作業を行えば、特殊な知識ほとんどなくても作業できます。Microsoft Excel が使え、デジタルカメラ、スキャナが操作でき、作成された画像の補正等をソフトウェアでできれば問題はありません。

**C-6 システム関係以外に担当者に必要とされる知識・技術はありますか？**

構築と同じで対象資料の内容や取扱についての理解が必要です。特に当館の場合は整理された資料から画像やテキストデータを作成するのではなく、物理的な整理もしながらの作業ですので、対象資料に応じた保存方法などに対する知識も必要とされます。

**C-7 担当者の人材育成のために、研修等何か取組みを行っていますか？**

特に行っていません。

#### **D. 地域住民の参加の有無**

##### **D-1 コンテンツの構築や解題の作成等、地域住民の協力を得ていますか？**

絵葉書資料については、書誌・画像データの作成とも図書館ボランティアを募集して作業をお願いしています。また試験的にはあるのですが、「デジタルアーカイブ CMS」(<http://museum.c.fun.ac.jp/joomla/>) というサイトを構築し、古地図研究者に協力して提供していただいた解説を公開しています。

##### **D-2 どのような方法で参加を募っていますか？**

年に1回市民の方を対象にした図書館ボランティア養成講座を開催し、心構えなどの基本的な事項を受講していただいた後に各種のボランティアに登録していただいています。

#### **E. 他機関との連携の有無**

##### **E-1 デジタルアーカイブの構築・運営にあたり、他の機関と連携・協力していますか？**

先に触れたデジタルアーカイブ CMS については、既存データベースを引用して解説を付記できるシステムになっていて、共同研究の成果等をインターネット上で共有し、公開できるようにしています。現在、掛け軸や卷子本などの特殊形態資料の内容調査を北海道教育大学函館校に委託していますが、その内容について、このシステムで公開していく予定です。今後は、地元の博物館・美術館学芸員や大学教員との連携を図り、地域研究を下支えできるようになればと考えています。

#### **F. 商用サービスの利用の有無**

##### **F-1 Flickr、YouTube のような商用サービスを活用していますか？**

活用はしていません。

#### **G. 今後のご予定・計画について、差支えない範囲でお聞かせください。**

2010 年度に公立はこだて未来大学にデジタルアーカイブ研究センターが設置されました。同センターは、大学が地域に対してサーバーを提供し、デジタル化を支援するための内部組織です。今までは特定教員との契約でしたが、今後は同センターとの契約になります。デジタルアーカイブ事業に継続的に取り組めるように、複数の教員と学生による組織となっていますので、より安定的に高度な連携がとれるようになりました。

当館としてもここ数年で資料のデジタル化が進み、資料の種類も点数もかなり増えてきています。これまでは、まず公開することを軸に事業を進めてきたのですが、同センターとの連携を強化して、自館図書館情報システムとの目録データの共有や各データベ



ースの共通検索、更新方式やデータの保存などの見直しをすすめ、高度化を図ることを予定しています。

#### H. その他ご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。

函館では大学との連携を進めることができましたので、他地域の比べ比較的スムーズに事業が進みましたが、基本方針は、数千万円・数億円の補助に頼る一過性の事業ではなく、予算がなくても継続的に構築が可能な、地方でもできる実質的アーカイブの構築を目指しています。

デジタルアーカイブというと、難しくとらえられる方も多いとは思いますが、当館の「はこだてポスターコレクションデータベース」は初期に作成したもので、予算付けが全くないなかで、Microsoft Access のデータとポスター画像をフリーウェアの web データベースソフトを使用して構築したものです。高度なシステムではありませんが、基本的には Microsoft Excel のようなデータシート状のデータがあり、スキャナやデジタルカメラで作成した画像があれば、大規模な予算は必ずしも必要ではないと考えています。

むしろ、人材の育成が一番大きいと思います。当館でも他の公共図書館同様に一般図書の貸し出しサービスなどの比重が圧倒的に高く、従事する職員数・予算とも比較にはなりません。しかし、資料保存と利活用のジレンマを緩和することができ、増え続ける資料の出納・管理の作業量を劇的に減らすことができる、図書館にとっても大きな利点のある事業だと思います。

電子図書館が注目されていますが、古い資料を公開していくデジタルアーカイブについても理解が広まってくれるといいと思います。

## 長岡市立中央図書館

住所:940-0041 長岡市学校町 1 丁目 2-2 開設年:1987 年 設置母体:市町村区立  
 所蔵資料:蔵書 829,641 (平成 22 年 4 月 1 日現在) 冊 職員総数(非常勤を含む):44 人 (平成 22 年 11 月 1 日現在)  
 回答担当:奉仕係

目的 〔達成状況〕	①活動成果の普及〔具体的な効果は不明〕 ②広報活動〔資料の貸出等の問い合わせが若干増えた〕 ③調査研究用〔原資料を見ずともデータで内容を簡単に確認できる〕
所蔵資料の 収録率	8%
運営予算	◆年間予算に占める割合:0.1% ◆外部委託費が占める割合:—
人員	◆運営担当者:その他:他部署(長岡市情報政策課) ◆人材育成の取組:その他:特にしていない ◎課題・工夫点等:現時点では人材の育成等までは考えていない。
権利処理	◆処理方法:自らの部署で処理 ◆処理状況:把握していない ◎課題・工夫点等:研修等があれば、できるだけ職員を受講させている。
他機関との 連携	◆連携状況:連携していない ◎課題・工夫点等:今のところ特に考えていない。
その他 F.A.	—

### 【長岡市立中央図書館・提供アーカイブ】

#### ■ながおかネット・ミュージアム (1 件目/1 件中)

公開年:2003 年 URL:<http://www.e-net.city.nagaoka.niigata.jp/museum/index.html> 更新頻度:年 1 回程度

概要	所蔵する貴重資料の画像・基本情報・解説など。主として上杉謙信・景勝・直江兼続・河井継之助の書など ◆コンテンツ総容量:— ◆コンテンツ総件数(内訳):125 件〔軸物 107 件, 謙信・景勝・兼続など 16 件, 塵壺 1 件, 求志洞遺稿 1 件〕※求志洞遺稿は一式を 1 件と数える ◆コンテンツ増加量:不明
利用者	◆ウェブアクセス数:1,500 件/月 ◆館内等利用者数:不明 ◆利用条件:無料 ◎課題・工夫点等:アーカイブへの入口をホームページのトップページに配置している。
構築	◆システム開発方法:不明 ◆構築予算:不明 ◆予算の出所:不明 ◆予算獲得のきっかけ:— ◆構築業務の担い手(委託内容):ほとんど外部委託〔制作〕 ◆コンテンツ作成費:不明
運営	◆年間運営予算:不明 ◆予算の出所:不明 ◆運営業務の担い手:内部の人材
技術	◆参考文献:ない ◆メタデータ作成者:自館職員 ◆準拠フォーマット:不明 ◆利用・提供用ファイル:不明 ◆保存用ファイル:— ◆記録媒体:DVD ◆長期保存のための取組:—
システム間連携	◆外部インターフェイス:不明 ◆連携システム:連携していない

※平成 21 年度図書館及び図書館情報学に関する調査研究「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」(調査期間:平成 21 年 10 月及び 12 月)の回答内容を一部更新したもの(平成 22 年 11 月更新)。

## A. 基本情報

### A-1 自己紹介をお願いします。

長岡市立中央図書館で主査を務めています。

### A-2 貴館のデジタルアーカイブについて簡単にご紹介をお願いします。

「ながおかネット・ミュージアム」(<http://www.e-net.city.nagaoka.niigata.jp/museum/index.html>)は、当館が所蔵する中世から現代までの貴重資料を、テーマごとに見やすく紹介しています。

## B. 構築時の状況について

### B-1 構築のきっかけは何ですか？また、それはいつ頃のことですか？

平成 15 年（2003 年）にスタートした「長岡市 e-ネットシティ構想」によります。

### B-2 どういうデジタルアーカイブを作るか、提供するコンテンツの種類をどうするか等の方向性は、どのように決めましたか？

当館の貴重資料を、順次公開していくという方針のもとに決定しました。

### B-3 作業プロセスの概略を教えてください。

- ① テーマの設定
- ② 資料の選定
- ③ 資料の解読
- ④ 原稿作成
- ⑤ 委託業者決定
- ⑥ 委託契約
- ⑦ デジタル化作業委託
- ⑧ ホームページに掲載

### B-4 どのような体制で構築作業を行いましたか？例えば、特別にプロジェクトチームのようなものを立ち上げましたか？また、何人くらいの職員が担当しましたか？

当館では 2 人（正職員 1 人＋古文書解読等担当嘱託員 1 人）、委託業者は数名です。

### B-5 構築にあたり、他館の事例を参考にしましたか？その場合、参考とした館を教えてください。

国立国会図書館、国立公文書館、秋田県立図書館の事例を参考にしました。

### B-6 他の組織や外部有識者、自治体内の他の部署等に相談に行ったりしましたか？また、

参考になった資料等があれば教えてください。

作業自体は当館が行いましたが、もともとは長岡市情報政策課主導の事業であったため、同課と相談しました。

B-7 (委託の場合) 職員と委託業者の作業をどのように切り分けしましたか？

資料の解読と原稿作成は当館が行い、デジタルデータ作成以降の作業は業者に委託しました。

B-8 構築に着手してから公開に至るまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか？

解読に要する時間は、資料ごとに異なります。業者に委託してから公開するまでには、約6か月を要しました。

B-9 構築に際し、もっとも大変だと思われたのはどのような点ですか？

資料の解読と、データ化した原稿の校正です。

B-10 構築に際し、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められましたか？

インターネットを閲覧できる程度の知識・技術です。

B-11 システム関係以外に必要な知識・技術はありましたか？

古文書の解読や、表現等に必要な基本的知識です。

B-12 必要となる知識・技術をどのように身につけましたか？受講した研修等があれば教えてください。

研修等は特に受講しませんでした。担当者の資質・経験等によりました。

## G. 稼働後の運営について

G-1 現在の担当者は何名ですか？(委託の場合、委託業者と職員に分けてお答えください。)

委託業者2名。職員2名。(正職員1名、古文書解読等担当嘱託員1人)

G-2 日々の作業としてどのようなことを行っていますか？

年1回程度コンテンツを更新しています。現在は、平成22年度末のコンテンツ追加を目指し、資料の選定や業者との委託契約等の手続きを進めています。

G-3 運営に当たり、課題だと感じていること、負担となっていること等がありますか？

コンテンツの数が増えたため、サイト内の整理の必要性を感じています。

**C-4** デジタルアーカイブのコンテンツを他の用途に活用していますか？（学校や市民講座の教材として活用、紙焼きして展示会を開催等）

貴重資料の画像を外部に提供する場合、Web から取り込んでもらう等。ダウンロードする場合は事前に申請が必要です。また、作成物を当館に納めていただいています。

**C-5** 日々の作業に当たり、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められていますか？

日々の作業がないため、特にありません。

**C-6** システム関係以外に担当者に必要とされる知識・技術はありますか？

古文書の解読や、表現等に必要な基本的知識です。

**C-7** 担当者の人材育成のために、研修等何か取組みを行っていますか？

特に行っていません。

#### **D. 地域住民の参加の有無**

**D-1** コンテンツの構築や解題の作成等、地域住民の協力を得ていますか？

特に得ていません。

#### **E. 他機関との連携の有無**

**E-1** デジタルアーカイブの構築・運営にあたり、他の機関と連携・協力していますか？

特に得ていません。

#### **F. 商用サービスの利用の有無**

**F-1** Flickr、YouTube のような商用サービスを活用していますか？

特に活用していません。

**G. 今後のご予定・計画について、差支えない範囲でお聞かせください。**

平成 23 年度は、藩校関係のコンテンツを追加する予定です。

## 富山市立図書館

住所:930-0085 富山市丸の内1丁目4-50 開設年:1970年 設置母体:市町村区立

所蔵資料:蔵書 946,000冊 職員総数(非常勤を含む):76人

回答担当:館内奉仕係

目的 〔達成状況〕	①新しい表現〔公開した画像について、利用者からの問い合わせがくるようになった〕 ②活動成果の普及〔貸出のみにとどまらない、図書館の多様な活動が認識されるようになった〕 ③—
所蔵資料の 収録率	0.0003%
運営予算	◆年間予算に占める割合:0.17% ◆外部委託費が占める割合:90% ◎課題・工夫点等:国の緊急雇用創出事業交付金を受け、公募により業務委託を行っている。
人員	◆運営担当者:知識の少ない職員 ◆職員のスキル等:デジタルアーカイブ構築の経験はないが、独学で学習して今では全体を管理する立場として、運用・更新等を外部業者に発注している ◆人材育成の取組:その他:特になし ◎課題・工夫点等:職員ごとのデジタル情報に関する知識や習熟度に差があり、これらを解消して職員全体のスキルアップをはかることが、課題である。
権利処理	◆処理方法:専門家等に一任、その他:著作権保護期間の満了したものをデジタル化している ◆処理状況:把握していない
他機関との 連携	◆連携状況:連携していない
その他 F.A.	他に類例のない、地域固有の情報提供に主眼を置いている。

### 【富山市立図書館・提供アーカイブ】

#### ■山田孝雄文庫 電子化資料 (1件目/2件中)

公開年:2009年 URL:<http://www.library.toyama.toyama.jp/yamadadl/index.html> 更新頻度:月1回程度

概要	山田孝雄氏の自筆原稿および、同氏旧蔵になる江戸期以前の和古書をデジタル画像化したもの ◆コンテンツ総容量:0.5GB ◆コンテンツ総件数(内訳):80件〔和古書55件 自筆原稿25件〕 ◆コンテンツ増加量:100件/年
利用者	◆ウェブアクセス数:不明 ◆館内等利用者数:不明 ◆利用条件:無料 ◎課題・工夫点等:アーカイブへの入口をホームページの見やすいところに配置する。
構築	◆システム開発方法:独自に開発 ◆構築予算:1~100万円 ◆予算の出所:自前の予算、国の補助金 ◆予算獲得のきっかけ:平成21年度緊急雇用対策事業として ◆構築業務の担い手:内部の人材 ◆コンテンツ作成費:11~50万円
運営	◆年間運営予算:301~500万円 ◆予算の出所:自前の予算 ◆運営業務の担い手(委託内容):一部外部委託〔撮影〕
技術	◆参考文献:ない ◆メタデータ作成者:図書館職員 ◆準拠フォーマット:独自の基準 ◆利用・提供用ファイル:JPEG ◆保存用ファイル:JPEG ◆記録媒体:HD, CD-ROM, DVD ◆長期保存のための取組:—
システム連携	◆外部インターフェイス:利用していない ◆連携システム:連携していない

■電子図書館 (2 件目/2 件中)

公開年:2003 年 URL:http://denshi.library.toyama.toyama.jp/ 更新頻度:年 1 回程度

概要	各種の富山市古地図および薬袋のパッケージデザイン等をデジタル画像化したもの ◆コンテンツ総容量:不明 ◆コンテンツ総件数(内訳):300 件〔古地図 120 件, 薬袋 180 件〕 ◆コンテンツ増加量:不明
利用者	◆ウェブアクセス数:不明 ◆館内等利用者数:不明 ◆利用条件:無料 ◎課題・工夫点等:アーカイブへの入口をホームページの見やすいところに配置する。
構築	◆システム開発方法:独自に開発 ◆構築予算:不明 ◆予算の出所:自前の予算 ◆予算獲得のきっかけ: ホームページのリニューアル ◆構築業務の担い手(委託内容):ほとんど外部委託〔撮影, データ入力等〕 ◆コンテンツ作成費:1~10 万円
運営	◆年間運営予算:301~500 万円 ◆予算の出所:自前の予算, 国の補助金 ◆運営業務の担い手(委託内容): 一部外部委託〔撮影〕
技術	◆参考文献:ない ◆メタデータ作成者:図書館職員 ◆準拠フォーマット:独自の基準 ◆利用・提供用ファイル: TIF ◆保存用ファイル:TIF ◆記録媒体:CD-ROM ◆長期保存のための取組:—
システム間連携	◆外部インターフェイス:利用していない ◆連携システム:連携していない

※平成 21 年度図書館及び図書館情報学に関する調査研究「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」(調査期間:平成 21 年 10 月及び 12 月)の回答

## A. 基本情報

### A-1 自己紹介をお願いします。

富山市立図書館・館内奉仕係長 舟山秀幸です。勤続 20 年目になります。

### A-2 貴館のデジタルアーカイブについて簡単にご紹介をお願いします。

電子図書館 (<http://denshi.library.toyama.toyama.jp/>) : 富山は昔から売薬で有名ですが、その薬袋にデザインされた意匠はユニークなものがあります。懐かしい雰囲気なたたえるとともに、商業デザインの分野においても興味深いものと考え、これらの画像を公開しています

山田孝雄文庫電子化資料 (<http://www.library.toyama.toyama.jp/yamadadl/index.html>) : 当館には富山市出身の国語学者・山田孝雄氏の旧蔵書を収蔵した「山田孝雄文庫」があります。その中から、自筆原稿や貴重な和古書の画像を公開しています。

## B. 構築時の状況について

### B-1 構築のきっかけは何ですか？また、それはいつ頃のことですか？

平成 12 年に行った地図の展示を機に、古地図の電子化を始めました。また、平成 13 年に富山市立図書館の図書館協議会委員から、薬袋デザインのデータベース化について提案があり、平成 15 年 1 月に電子図書館として公開しました。

### B-2 どういうデジタルアーカイブを作るか、提供するコンテンツの種類をどうするか等の方向性は、どのように決めましたか？

電子図書館は上記の提案を受け、図書館ホームページ上において薬袋の画像を公開することになりました。山田孝雄文庫電子化資料は、文庫収蔵資料のうち特に貴重なものについて、広く公開するため、自筆原稿・和古書の画像を電子化することにより Web に発信したいと考えていました。これは緊急雇用創出事業により実現しました。

### B-3 作業プロセスの概略を教えてください。

- ① データベースシステム作成
- ② 資料の撮影（薬袋はフィルム借用）
- ③ データ入力作業

### B-4 どのような体制で構築作業を行いましたか？例えば、特別にプロジェクトチームのようなものを立ち上げましたか？また、何人くらいの職員が担当しましたか？

図書館システム更新にともなうプロジェクトチームのうち、図書館職員 2 名が電子図書館部門の担当となり、業者との打ち合わせを行いながら進めました。



B-5 構築にあたり、他館の事例を参考にしましたか？その場合、参考とした館を教えてください。

金沢市立玉川図書館近世史料館・富山県立図書館の事例を参考にしました。

B-6 他の組織や外部有識者、自治体内の他の部署等に相談に行ったりしましたか？また、参考になった資料等があれば教えてください。

薬袋の撮影フィルムを「売薬資料館」から借受しました。

B-7 (委託の場合) 職員と委託業者の作業をどのように切り分けしましたか？

電子図書館：古地図のホームページ追加掲載のみ職員が担当しています。

山田孝雄文庫：撮影業務を委託しています。

B-8 構築に着手してから公開に至るまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか？

平成14年6月に打ち合わせを開始し、平成15年1月に公開しました。

B-9 構築に際し、もっとも大変だと思われたのはどのような点ですか？

予算の獲得です。

B-10 構築に際し、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められましたか？

特に専門的なものではなく、一般的なレベルです。

B-11 システム関係以外に必要な知識・技術はありましたか？

貴重書の撮影については、カメラと撮影の知識が必要になりました。

B-12 必要となる知識・技術をどのように身につけましたか？受講した研修等があれば教えてください。

パソコン及びデジタルカメラの撮影に関する本を複数読んで身につけました。

## C. 稼働後の運営について

C-1 現在の担当者は何名ですか？（委託の場合、委託業者と職員に分けてお答えください。）

担当職員1名、委託業者3名（山田文庫貴重資料の撮影）です。古地図は年1回業者に作成を発注しています。

C-2 日々の作業としてどのようなことを行っていますか？

山田文庫貴重資料・古地図のホームページへのアップロード作業は、担当職員が随時行っています。山田文庫貴重資料の撮影は、委託業者が継続して行っています。電子図書館（薬袋）については追加・更新等はとくに行っていません。

**C-3 運営に当たり、課題だと感じていること、負担となっていること等がありますか？**

予算の継続的な獲得・人員不足が課題です。

**C-4 デジタルアーカイブのコンテンツを他の用途に活用していますか？（学校や市民講座の教材として活用、紙焼きして展示会を開催等）**

貴重書の複写申込については、電子化したデータを活用しています。

**C-5 日々の作業に当たり、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められていますか？**

ホームページ作成に関する知識・技術が必要です。

**C-6 システム関係以外に担当者に必要とされる知識・技術はありますか？**

特にありません。

**C-7 担当者の人材育成のために、研修等何か取組みを行っていますか？**

特に行っていません。

#### **D. 地域住民の参加の有無**

**D-1 コンテンツの構築や解題の作成等、地域住民の協力を得ていますか？**

特にありません。

#### **E. 他機関との連携の有無**

**E-1 デジタルアーカイブの構築・運営にあたり、他の機関と連携・協力していますか？**

薬袋の撮影フィルムを「売薬資料館」から借受しました。

#### **F. 商用サービスの利用の有無**

**F-1 Flickr、YouTube のような商用サービスを活用していますか？**

特に行っていません。

#### **G. 今後のご予定・計画について、差支えない範囲でお聞かせください。**

当館では、現在行っている電子化事業以外に当面の予定はありませんが、今後の図書館においては、各種の電子化情報の提供が大きな役割を占めるようになるものと思われる

ます。機会があれば、新たな電子化事業に取り組みたいと考えています。

**H. その他ご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。**

当館の電子化情報が、多くの方のお役にたつことを願っております。

## 上田市立上田図書館

住所: 386-0014 上田市材木町1丁目2-47 開設年: 1970年 設置母体: 市町村区立  
所蔵資料: 蔵書 270,000冊 職員総数(非常勤を含む): 24人

目的 〔達成状況〕	①新しい表現〔デジタル化により、職員が探し出して立ち会わないで閲覧可能になった〕 ②検索性の向上〔インターネットにより、どこからでも閲覧可能になった〕 ③資料の保存・管理〔デジタル化により、原本劣化の恐れが無くなった〕
所蔵資料の 収録率	0%に近い
運営予算	◆年間予算に占める割合: 不明 ◆外部委託費が占める割合: 不明
人員	◆運営担当者: 他部署の者 ◆人材育成の取組: 上田市マルチメディア情報センターを活用している。 ◎課題・工夫点等: 上田市マルチメディア情報センターに専門職員が配置されている。
権利処理	◆処理方法: 自らの部署で処理, 著作権フリー資料 ◆処理状況: 把握していない
他機関との 連携	◆ 連携状況: 現在はホームページの一部を管理してもらっている。
その他 F.A.	—

### 【上田市立上田図書館・提供アーカイブ】

<b>■東山道信濃国略図</b> (1件目/1件中) 公開年: 2000年 URL: <a href="http://www.echol.gr.jp/digilib/index.html">http://www.echol.gr.jp/digilib/index.html</a> 更新頻度: 更新していない	
概要	1752年に製作された信濃国(現在の長野県)の地図をデジタル化したもの。FlashPix形式によって、細部まで拡大して見ることができるようになっている。 ◆コンテンツ総容量: 0.5GB ◆コンテンツ総件数〔内訳〕: 1件 ◆コンテンツ増加量: 0件(増加していない)
利用者	◆ウェブアクセス数: 400件/月〔2008年度は、月間300件。33%増〕 ◆館内等利用者数: 不明 ◆利用条件: 無料 ◎課題・工夫点等: FlashPix形式の採用によって、回線に不可をかけることなく高精細画像を提供している。
構築	◆システム開発方法: 独自に開発 ◆構築予算: 501~1000万円 ◆予算の出所: 国の補助金 ◆予算獲得のきっかけ: 文部省(生涯学習局)委嘱事業の上田地域社会教育施設(図書館等)情報化・活性化推進事業 ◆構築業務の担い手〔委託内容〕: ほとんど外部委託〔上田市マルチメディア情報センター〕 ◆コンテンツ作成費: 50,000千円の内(該当額不明)
運営	◆年間運営予算: 1~100万円 ◆予算の出所: 自前の予算 ◆運営業務の担い手: ほとんど外部委託〔上田市マルチメディア情報センター〕
技術	◆参考文献: 不明 ◆メタデータ作成者: 不明 ◆準拠フォーマット: 不明 ◆利用・提供用ファイル: FlashPix, JPEG ◆保存用ファイル: — ◆記録媒体: HD, CD-ROM ◆長期保存のための取組: —
システム連携	◆外部インターフェイス: 利用していない ◆連携システム: 連携していない

※平成21年度図書館及び図書館情報学に関する調査研究「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」(調査期間: 平成21年10月及び12月)の回答内容を一部更新したもの(平成22年11月更新。平成21年度調査時非公開)。

## A. 基本情報

### A-1 自己紹介をお願いします。

館長の坪田 秀彦です。

### A-2 貴館のデジタルアーカイブについて簡単にご紹介をお願いします。

「上田市立上田図書館デジタルライブラリー」(<http://www.echol.gr.jp/digilib/index.html>)は、当館所蔵の特殊コレクションの紹介、代表的コレクションである花月文庫の目録、同文庫中の東山道信濃国略図、御当代記、それに上田市立上田図書館のあゆみで構成されており、デジタルアーカイブがまだ一般に広まらないときに先駆的に取組み、研究者の便宜を図るとともに閲覧の都度痛んでいく不安を解消できました。

## B. 構築時の状況について

### B-1 構築のきっかけは何ですか？また、それはいつ頃のことですか？

平成 11 年頃の上田市マルチメディア情報センターが提案した文化財等デジタルアーカイブ構想がきっかけで、当館の所蔵する貴重資料である花月文庫の目録、同文庫の中の絵地図である東山道信濃国略図、同じく徳川 5 代将軍綱吉時代のことを記した御当代記全 6 巻をデジタル化したものです。

### B-2 どういうデジタルアーカイブを作るか、提供するコンテンツの種類をどうするか等の方向性は、どのように決めましたか？

図書館だけが持っているオリジナル性と研究者がよく見に来るもの、そして広げて見るのが大変な形態の資料からひとつずつ選びました。

### B-3 作業プロセスの概略を教えてください。

絵地図の原資料（東山道信濃国略図）については一週間かけてしわを伸ばし全体を四つに分けて撮影しました。そしてデジタル合成によって一枚に仕上げました。

（注：上田市立上田図書館デジタルライブラリーの以下のページに、「東山道信濃国略図」デジタルアーカイブのメイキングが掲載されています。

URL：<http://museum.umic.ueda.nagano.jp/library/make.htm>）

### B-4 どのような体制で構築作業を行いましたか？例えば、特別にプロジェクトチームのようなものを立ち上げましたか？また、何人くらいの職員が担当しましたか？

他の作業も含め、事業全体で実行委員会を組織しました。1 市 3 町の教育長以下による実行委員が 31 名、そのほか図書館、マルチメディア情報センター、(株)テレコム・ユーの実務者等数名によるワーキンググループ（地域電子図書館推進部会）を構成しました。

B-5 構築にあたり、他館の事例を参考にしましたか？その場合、参考とした館を教えてください。

先例が無かった模様です。

B-6 他の組織や外部有識者、自治体内の他の部署等に相談に行ったりしましたか？また、参考になった資料等があれば教えてください。

上田市情報推進課、上田市マルチメディア情報センター、第三セクターの(株)テレコム・ユー、上田女子短期大学に相談しました。

B-7 (委託の場合) 職員と委託業者の作業をどのように切り分けましたか？

不明です。

B-8 構築に着手してから公開に至るまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか？

推定1年です。

B-9 構築に際し、もっとも大変だと思われたのはどのような点ですか？

専属でなく、日々のカウンター業務など図書館業務に従事しながら作業した点が大変だったと聞いています。

B-10 構築に際し、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められましたか？

ほとんど必要なかったようです。

B-11 システム関係以外に必要な知識・技術はありましたか？

著作権法に関する知識が必要になりました。

B-12 必要となる知識・技術をどのように身につけましたか？受講した研修等があれば教えてください。

特にありませんでした。

### C. 稼働後の運営について

C-1 現在の担当者は何名ですか？(委託の場合、委託業者と職員に分けてお答えください。)

特におりませんが、表現の加筆・修正が必要な場合、(当時私が情報推進課にいたことから)私が上田市マルチメディア情報センターや(株)テレコム・ユーに依頼しています。

G-2 日々の作業としてどのようなことを行っていますか？

特にありません。

G-3 運営に当たり、課題だと感じていること、負担となっていること等がありますか？

特にありません。

G-4 デジタルアーカイブのコンテンツを他の用途に活用していますか？（学校や市民講座の教材として活用、紙焼きして展示会を開催等）

図書館としては特にありません。

G-5 日々の作業に当たり、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められていますか？

特にありません。

G-6 システム関係以外に担当者に必要とされる知識・技術はありますか？

特にありません。

G-7 担当者の人材育成のために、研修等何か取組みを行っていますか？

特にありません。

#### D. 地域住民の参加の有無

D-1 コンテンツの構築や解題の作成等、地域住民の協力を得ていますか？

個々の市民の方からの直接の協力は得ていませんが、コンテンツ構築にあたって地域の短期大学の先生方の協力を得ました（「E. 他機関との連携の有無」を参照）。

#### E. 他機関との連携の有無

E-1 デジタルアーカイブの構築・運営にあたり、他の機関と連携・協力していますか？

コンテンツの構築や解題の作成にあたり、上田女子短期大学の協力を得ました。また、デジタルアーカイブの構築・運営にあたり上田市マルチメディア情報センターと協力しています。

E-2 具体的な協力の内容をお答えください。

上田女子短期大学国文学科長の太刀川清教授（当時）をはじめとする国文科の6人の先生方にいわゆる「花月一万冊」の目録をインターネット版のものに作り直すための調査をしていただきました。

また、上田市マルチメディア情報センターや(株)テレコム・ユーにはデジタル化作業を行ってもらいました。

**E-3 どのようなきっかけでこれらの機関と協力することになりましたか？**

購入当時の昭和 28 年に作成された冊子の分類目録があるのですが、まだ不完全で、長らく改訂版が望まれていました。それには、これらの文庫を時々閲覧し、研究をされていた地元の大学の教授陣にお願いするのが一番良いと思われ、協力を要請しました。

**F. 商用サービスの利用の有無**

**F-1 Flickr、YouTube のような商用サービスを活用していますか？**

活用していません。

**G. 今後のご予定・計画について、差支えない範囲でお聞かせください。**

現在のところ考えていません。

**H. その他ご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。**

少し宣伝をさせていただければ、上田地域は早くから地域の情報化に取り組み、郵政省(当時)のテレトピア地域に指定されて、推進企業として第三セクターの(株)テレコム・ユーを発足させ、事業のひとつとして公共図書館の情報ネットワークを平成 7 年に構築しました。また、通商産業省(当時)からの補助により平成 7 年上田市マルチメディア情報センターを建設・開館しました。一方地元のケーブルテレビ会社は先進的に光ファイバー網によるケーブルインターネットに取り組み、これを実用化しました。

また、上田地域はかつて国府が置かれ、塩田地区は信州の学海と称され、大正期は蚕種(蚕の卵)の製造で栄え、進取の気風に富んで発展してきました。上田図書館もその前身は大正 4 年に遡ります。また花月文庫は、江戸の庶民文学を初めとした莫大な蔵書を持っていた銀行員・飯島花月氏の没後、その散逸を防ぐため、市で買い取ったものです。

このような図書館のコンテンツとマルチメディア技術、さらに高速通信網が加わって、当時としては先進的なデジタルアーカイブ事業を行うことができたと思います。

蛇足ながら、その当時情報推進課に勤務し、これらの旗振りをしていた私ですが、今は上田図書館長になっています。



豊中市立岡町図書館	
住所:561-0884 大阪府豊中市岡町北3-4-2 開設年:1945年 設置母体:市町村区立 所蔵資料:蔵書約1,000,000冊 職員総数(非常勤を含む):105人 回答担当:企画管理係	
目的 〔達成状況〕	①その他:市民協働による地域資料の収集・整理・発信〔地域住民による更新作業が進んでいる〕 ②活動成果の普及〔アクセス数が順調に推移している〕 ③広報活動〔アクセス数が順調に推移している〕
所蔵資料の 収録率	不明
運営予算	◆年間予算に占める割合:0.001% ◆外部委託費が占める割合:70% ◎課題・工夫点等:図書館システム更新の際、図書館システムの一部として保守付のリース契約を行っており、その月額費用に含まれているため詳細は不明である。約8万円/月とは聞いている。 別途、委員会参加への謝礼金と消耗品費等を合わせて20万円程度予算を確保している。
人員	◆運営担当者:知識の少ない職員、研究者等専門家によるアドバイス、市民サポーター(地域フォトエディター) ◆職員のスキル等:図書館総合システムの管理の一つとしてデジタルアーカイブの運営業務を行っている。データの管理が主な業務で、その他に会議や情報提供(所蔵)者への連絡等調整業務がある。編集・更新や運用に関しては、「地域情報アーカイブ化事業実行委員会」と「地域フォトエディター」が中心になって行っている。 ◆人材育成の取組:独自の人材育成体系、その他:地域フォトエディターの育成と研修 ◎課題・工夫点等:図書館のシステム(書誌など)とは異なるので、図書館側もアーカイブのシステムを学び精通した人材を育成していかなければならない。活動に参加している市民の方はシステムについて見識が深く、協力をいただいている。また、委員会でも学識経験者から適切なアドバイスを受けている。これらの意見を集約しICTが苦手な市民の方にも使いこなせる柔軟性のある仕組み(システム)を構築したい。
権利処理	◆処理方法:自らの部署で処理、権利者との信頼関係 ◆処理状況〔年間処理件数/費用〕:把握している〔約30件/0円〕 ◎課題・工夫点等:資料を提供いただく際に、こちらの利用方法を明示し確認の上、書類をご記入していただいている。また、利用規約を整備してできるかぎり利用する側される側互いの権利関係を明確にするよう努めている。
他機関との 連携	◆連携状況〔連携内容〕:連携している〔コンテンツ作成において箕面市の図書館と連携している。〕 ◎課題・工夫点等:地域住民が求める地域情報は行政区域に依存せず生活圏にあると考え、豊中市と箕面市の行政・市民団体・住民の連携によりスタートしている。PDCAサイクルの計画(Plan)から地域の意見が反映され、地域ニーズに沿った事業を目指している。行政・市民のもつ強み・弱みを互いに補いながら、民間事業者・研究機関にも働きかけ地域の輪を広げていきたい。
その他F.A.	「地域情報の担い手は地域住民である」をベースに事業を進めている。編集は地域の方が担っている。図書館は、取材先への照会やデータの管理、活動場所の確保、調査(レファレンス)をして更新作業を支援している。 家からでも作業ができるようにIDとパスワードを交付してホームページの更新をしていただいている。しかし、データベース機能や検索機能が弱くシステムの強化が必須である。

#### 【豊中市立岡町図書館・提供アーカイブ】

■北摂アーカイブス (1件目/1件中)	
公開年:2010年 URL: <a href="http://wiki.service-lab.jp/lib_toyonaka/">http://wiki.service-lab.jp/lib_toyonaka/</a> 更新頻度:週1回程度	
概要	行政だけではなく、民間事業者、学校などの地域の団体及び地域住民が所有する地域にまつわる写真を収集し、市民サポーター(地域フォトエディター)が取材・編集をして公開・更新し地域資産を協創するアーカイブ。 ◆コンテンツ総容量:約4GB ◆コンテンツ総件数〔内訳〕:約3,000件〔目録化されている写真は3,000枚程度。ホームページに掲載している件数は150枚程度〕 ◆コンテンツ増加量:約30~40件/年
利用者	◆ウェブアクセス数〔増減傾向〕:約5,500件/月〔各詳細ページの件数はつかめていないが、更新作業が多い月は増えている。〕 ◆館内等利用者数:不明 ◆利用条件:無料 ◎課題・工夫点等:RSSにより、利用者に更新情報を公開している。
構築	◆システム開発方法:その他:事業者の提供するASPサービス上にサイトを構築し、その作業を共同で行った。このシステムがプロトタイプとなり、現在ASPサービスとして製品化されている。 ◆構築予算:不明 ◆予算の出所:自前の予算

	<p>◆<b>予算獲得のきっかけ</b>: 2008年度システム更新時に、従来の図書館管理業務に加えて、CMSやメールマガジン等を加えた図書館総合システムを導入することとなり、その一機能として構築した。</p> <p>◆<b>構築業務の担い手</b>[委託内容]: 一部外部委託 [構築・デザインなど]</p> <p>◆<b>コンテンツ作成費</b>: 不明</p>
運営	<p>◆<b>年間運営予算</b>: 1～100万円 ◆<b>予算の出所</b>: 自前の予算</p> <p>◆<b>運営業務の担い手</b>[委託内容]: 一部外部委託 [ASP/SaaSでサーバ管理・バックアップ等]</p>
技術	<p>◆<b>参考文献</b>: デジタルアーカイブ要覧 ◆<b>メタデータ作成者</b>: 職員, 市民サポーター (地域フォトエディター)</p> <p>◆<b>準拠フォーマット</b>: 独自の基準</p> <p>◆<b>利用・提供用ファイル</b>: JPEG, PDF ◆<b>保存用ファイル</b>: - ◆<b>記録媒体</b>: HD, DVD</p> <p>◆<b>長期保存のための取組</b>: とりあえずHDとDVD両方にバックアップをとるようにしているが、その方法にはいつも悩まされている。貴重な資料は解像度をあげて保存しておくなどの取組はしている。</p> <p>◎<b>課題・工夫点等</b>: 技術革新が著しい今、どの形式でどの媒体で記録すべきか悩ましい。メタデータについても必要性は理解しているが、スキャナーでデジタル化した資料にフォトエディターの方「誰でも」が、「簡単に」必要な情報を付与できる方法がないか模索中である。</p>
システム間連携	<p>◆<b>外部インターフェイス</b>: 利用していない</p> <p>◆<b>連携システム</b>: 連携していない</p>

(平成 22 年 11 月回答)

## A. 基本情報

### A-1 自己紹介をお願いします。

豊中市立岡町図書館企画管理係です。

### A-2 貴館のデジタルアーカイブについて簡単にご紹介をお願いします。

「北摂アーカイブス」([https://wiki.service-lab.jp/lib\\_toyonaka/](https://wiki.service-lab.jp/lib_toyonaka/))は、「地域の記憶を地域の記録へ」という理念のもと、市民サポーター「地域フォトエディター」が、地域に散在する資料を収集・保存し電子データとして公開する事業です。

## B. 構築時の状況について

### B-1 構築のきっかけは何ですか？また、それはいつ頃のことですか？

長年の懸案だった「地域資料」の収集、整理、発信に対して、2008年度の図書館システムの更新時に、図書館システムの一機能として構築することにしました。

### B-2 どういうデジタルアーカイブを作るか、提供するコンテンツの種類をどうするか等の方向性は、どのように決めましたか？

「地域情報の担い手は地域住民である」という考えの下で、2008年度、財団法人地方自治センターの共同調査研究事業として『住民参加によるウィキ型地域情報データベース構築に関する調査研究』を行い、デジタルアーカイブ構築の基礎としました。研究会では「地域情報の収集・発信について研究する」、「情報システムの構築について研究する」、「住民参加によるウィキ型地域情報データベース構築モデルを提案する」を目標とし、扱うコンテンツの種類と実現にむけたプロセスを検討しました。この研究を引き継ぐ形で、文部科学省の2009年度「図書館における地域の知の拠点支援事業」として、豊中市・箕面市、市民団体及び学識経験者で構成された豊中・箕面地域情報アーカイブ化事業実行委員会が委託を受けて「豊中・箕面地域情報アーカイブ化事業」を実施しました。この委員会において、扱うコンテンツの種類や運営方法について具体化していきました。

### B-3 作業プロセスの概略を教えてください。

Wikiベースのシステムとして、(簡易な)仕様書をもとに構築に着手しました。その成果物が、外部事業者から2009年4月に納品されました。納品後から公開まではB-2のとおりです。

### B-4 どのような体制で構築作業を行いましたか？例えば、特別にプロジェクトチームのようなものを立ち上げましたか？また、何人くらいの職員が担当しましたか？

図書館内のコンピュータ委員会事務局（4名）と外部委託業者とで、仕様書をもとに定期的に会議を実施し、作業を進めました。

**B-5 構築にあたり、他館の事例を参考にしましたか？その場合、参考とした館を教えてください。**

構築時は、「区民がつくる葛飾百科」（葛飾区立図書館）、「美麻 wiki」（大町市）、「みたか Wiki」（三鷹市）、「apedia」（尼崎市立地域研究史料館）を参考にしました。実行委員会を立ち上げ、コンテンツを写真に絞ってからは、「みんなで作る横濱写真アルバム」（横浜市）、「せんだい街のアルバム製作委員会」（せんだいメディアテーク）、「しながわ WEB 写真館」（品川区）、「長崎大学附属図書館幕末明治期古写真メタデータ・データベース」（長崎大学附属図書館）、「美濃加茂市民ミュージアム」（美濃加茂市）などを参考にしました。

**B-6 他の組織や外部有識者、自治体内の他の部署等に相談に行ったりしましたか？また、参考になった資料等があれば教えてください。**

当市の情報政策室。みんなで作る横濱写真アルバム実行委員会（当時）。

**B-7 （委託の場合）職員と委託業者の作業をどのように切り分けしましたか？**

構築時はコンテンツ等を絞りきれておらず、システムの部分、いわゆる器のみ、外部事業者が構築しました。

**B-8 構築に着手してから公開に至るまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか？**

システムについては2008年12月に構築に着手し、2009年4月に納品されました。その後、コンテンツを集め編集をして、2010年3月に公開しました。あわせて約1年3か月です。

**B-9 構築に際し、もっとも大変だと思われたのはどのような点ですか？**

内容の編集・削除が自由で、BBSのように時系列の整理を行わず「記事」を自由に書き加えていくシステムを、Web管理のツール「Wiki」をベースに構築したことです。自由度を残しながらいかに制限を加えていくか、その加減・程度が困難でした。今後は検索性の向上が求められ、DBも必要かと考えています。

**B-10 構築に際し、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められましたか？**

基本的にフリーソフトなので、少しHTMLが分かればある程度使いこめます。枠組みは決められていますが、デザイン変更はできるように組みました。ただし、外部事業者のカスタマイズの部分は担当SEに頼らざるを得ない部分となっています。

**B-11 システム関係以外に必要なとなった知識・技術はありましたか？**

知識・技術ではありませんが、まず、住民参加を前提にしているので「協働」して「協創」していく仕組みをつくるが必要になりました。その他、著作権法・プロバイダ責任制限法等の法令の知識が必要になりました。

**B-12 必要となる知識・技術をどのように身につけましたか？受講した研修等があれば教えてください。**

特にありません。

**C. 稼働後の運営について**

**C-1 現在の担当者は何名ですか？（委託の場合、委託業者と職員に分けてお答えください。）**

図書館職員は 1 名。情報更新は市民サポーター十数名。サーバ等バックアップは ASP（外部）事業者。

**C-2 日々の作業としてどのようなことを行っていますか？**

図書館職員は、編集会議の日程調整、情報提供・所有者への連絡（著作権の確認等）、編集会議への参加、調査補助（レファレンス）の他、いわゆる事務的な調整を行っています。

**C-3 運営に当たり、課題だと感じていること、負担となっていること等がありますか？**

コンテンツの収集の難しさです。インターネットで提供を呼びかけてもなかなか発掘できません。他には、内部の人材とサポーターの育成方法、システムの再構築（DB、メタデータ、ご意見のフォームなど）も課題です。

**C-4 デジタルアーカイブのコンテンツを他の用途に活用していますか？（学校や市民講座の教材として活用、紙焼きして展示会を開催等）**

2010 年度に紙焼きをして展示会を開催します。学校からも教材としての活用に関する問い合わせが来ています。

**C-5 日々の作業に当たり、担当者にはどの程度のシステム関係の知識・技術が求められていますか？**

現在はテンプレートを用意して、テキストベースで地域フォトエディターの方々が更新作業できる環境整備をしています。そのため、エラーが起こった時にサポートを行う程度でシステム関係の技術が求められる機会はあまりありません。

**C-6 システム関係以外に担当者に必要とされる知識・技術はありますか？**

アーカイブ（公文書等）の取り扱いに関すること。デジタルデータの取り扱い（フォーマット）。著作権法等の法令。

**C-7 担当者の人材育成のために、研修等何か取組みを行っていますか？**

図書館職員向けの研修等は実施していませんが、地域フォトエディター向けの研修は実施しています。

**D. 地域住民の参加の有無**

**D-1 コンテンツの構築や解題の作成等、地域住民の協力を得ていますか？**

市民サポーター（地域フォトエディター）と呼ばれる方々が事業の中心として、コンテンツ内容・編集・更新を担っています。中には、ICTに精通した人材もおり、今後のシステム構築のアドバイス（DB等）もしていただいています。

**E. 他機関との連携の有無**

**E-1 デジタルアーカイブの構築・運営にあたり、他の機関と連携・協力していますか？**

箕面市の図書館・箕面市民とも当初から連携をしてコンテンツを作成しています。また、両市とも市史や文化財の担当部局から助言・アドバイスを得て事業を進めています。

**E-2 どのようなきっかけでこれらの機関と協力することになりましたか？**

2008年度、財団法人地域自治情報センターの「共同調査研究事業」の構成員として市民団体、学識経験者を交えて研究を始めたのがきっかけです。また、両市は2003年より広域利用サービスを試行する等緊密な関係を築いています。

**F. 商用サービスの利用の有無**

**F-1 Flickr、YouTubeのような商用サービスを活用していますか？**

現在は活用していません。

**G. 今後のご予定・計画について、差支えない範囲でお聞かせください。**

写真というコンテンツで精一杯ですが、いずれは自治会報のデジタル化、8ミリなどの動画、音声など進めていきたいと考えています。その前にまず地域フォトエディターの育成が最優先だと思っています。

**H. その他ご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。**

2008年研究当初、形あるものにできるのか、研究だけで終わってしまうのか、手探りの状態から始まりました。研究を進めていくと、住民の方々の熱意と実行力を活かす仕組みを作れば構築できるのではとイメージがわいてきました。2009年事業を立ち上げていくと様々な問題もありましたが、両市の「住民力」が大きな推進力になりホームページを公開することができました。今後このような活動をいかに地域住民や周辺地域に広報し、自ら参加していただけるかが課題です。また地域フォトエディターの方々がより中心となって管理運営し、自立した事業へと展開できるかをともに汗を流して協働していきたいと思います。